

## 【平成 29 年度第 4 回事務局会議】

### 1. 相談室活動報告

- (1) 新スタッフ紹介…妹尾NSの紹介
- (2) 相談件数について…横浜市 18 区の今期 4 ヶ月の相談実績
- (3) 連絡ノート紹介…「連絡ノート」の目的、「取扱い留意点」、「連絡ノート」の構成、今後の予定、「連絡ノート」ワーキンググループメンバー

### 2. 講義「高齢者の気になる皮膚疾患」

浅井皮膚科クリニック院長 浅井俊弥先生

- (1) 皮膚患者が在宅患者さんで問題になる頻度は…「多い・しばしば」84%
- (2) 在宅患者の皮膚疾患は主にだれがみてるか…「主治医のみ」40%、  
「主治医と皮膚科医」35%
- (3) 在宅往診患者の年齢分布…「80～89 歳」37.4%、「70～79 歳」30.7%
- (4) 皮膚科医に聞きたい在宅で問題となる皮膚病…①褥瘡 ②みずむし  
③爪のトラブル ④潰瘍・外傷
- (5) 在宅患者の足趾潰瘍の原因…物理化学的障害、動脈性血行障害（PAD）、その他
- (6) 在宅患者の PAD による足趾潰瘍  
PAD による足趾の潰瘍で訪問看護ステーションから往診依頼を受ける在宅患者が増加している。皮膚科的外用療法だけで改善する症例は少ない。在宅皮膚科医として、どのように対応するべきか。他科との連携、訪問看護師との連携はどのように構築すればよいか。
- (7) 疥癬の診断…臨床症状、ヒゼンダニの検出、疫学的流行状況
- (8) 治療薬の特徴…フェノトリン、イベルメクチン等
- (9) 疥癬危険度分類の評価
  - ①施設側の利点として、区分によって外用処置、入浴の回数、リネン処理などの介護・看護計画がスムーズに立てられた。また、病状に対する理解が深まり、異なった職員間の認識が画一化された。
  - ②Dr 側の利点として、無駄な時間・労力を省くことができ、効率のよい診療ができ、また治療効果の把握も容易であった。また初診時だけでなく、治療経過中のフォローの基準としても利用でき、施設スタッフとの意思疎通もスムーズであった。

### 3. 検討事例「重症下肢虚血の症例を通して連携を考える」

みんなの訪問看護リハビリステーション 訪問看護師 和智 理恵氏

事例を通し、訪問看護の役割と病院等医療機関との連携の重要性を改めて学ぶ良い機会となりました。

今後の地域連携の課題として…

- ① サマリーの重要性と活用
- ② 退院時カンファレンスの参加
- ③ 連携窓口との協力
- ④ 訪問看護指示書への配慮
- ⑤ 良質な訪問看護提供の為に、医学的情報の収集やリスク管理の徹底